

第 39 回岐阜県病院協会医学会

特別措置病室を用いた PRRT における放射性汚染物の現状報告

岐阜市民病院 中央放射線部

加藤誠也

[背景]

神経内分泌腫瘍 (MEN) は、ソマトスタチン受容体が多く発現している腫瘍である。近年、その治療法の一つにペプチド受容体放射性核種療法 (PRRT) があり、その治療薬としてルテチウムオキシドトレオチド (以下、ルタテラ®) がある。ルタテラ®は、ソマトスタチン類似物質に ^{177}Lu で標識した放射性薬剤である。投与後、腫瘍細胞に取り込まれ、 ^{177}Lu から放出される β 線が DNA 損傷を惹起し、細胞増殖抑制作用を発揮する。ルタテラ®は、放射線治療病室に入院して行うが、当院にはないため特別措置病室を一時的に設置することで対応することとなった。ルタテラ®は、尿排泄のため尿の取り扱いが問題となる。特別措置病室には専用の排水設備がないため、当院では災害用トイレを使用して尿を固形物として廃棄室保管することを試みた。今回、第一症例を経験したので報告する。

[方法]

電離箱線量計を用いて、廃棄室の 2 か所における漏洩線量を計測し集計した。

[結果]

第一回の投与を終えたばかりであり集計途中のため追って報告する。